

平成27年度春季特別展

秦野の歴史 2015



ミミズク土偶頭部
太岳院遺跡出土



神奈川県指定文化財
弥生時代前期壺形土器
平沢同明遺跡出土

今回の特別展示では、秦野市域から発見された考古資料をとおして、教科書にはのらない「地域」の歴史を紹介します。はじめて歴史を学ぶ方はもちろん、あらためて歴史を学びたいという方も、この機会に秦野の持つ歴史的な魅力をお楽しみ下さい。

平成27年 4月14日(火)～6月28日(日)

入館無料

開館時間-9:00~17:00(入館は16:30まで)

休館日-4月6日、13日、20日、27日、30日/5月7~8日、11日~13日、18日、25日/6月1日、8日、15日、22日

開催場所 秦野市立桜土手古墳展示館
ミュージアムプロムナード(展示館地下)

〒259-1304 神奈川県秦野市堀山下380-3
TEL0463-87-5542 FAX0463-87-5794

交通案内

徒歩・小田急線渋谷駅北口を出て直進
(駅から徒歩20分)

バス・秦野駅から神奈川中央交通、
秦54「渋谷駅北口」行き乗車、
「桜土手古墳公園」バス停下車。

・渋谷駅から神奈川中央交通、
渋谷05「高砂車庫前」行きか
秦54「秦野駅」行き乗車、
「桜土手古墳公園」バス停下車。



中世

日本の中世は、平安時代中期から戦国時代までを指します。この時代の遺跡としては、城や武士の館の跡などが有名で、秦野市では、東地区において、東田原中丸遺跡が見つかっています。

鎌倉に幕府がおかれた当時、秦野は「波多野庄」という名前で呼ばれており、波多野氏という鎌倉幕府の御家人が実質的に支配していたと考えられています。

東田原中丸遺跡は、波多野氏に関わる遺跡と考えられており、遺跡からは中世前期の館跡と思われる痕跡や、まとまった量の白かわらけなどに代表される陶磁器類などが見つかっています。

なお、東田原中丸遺跡の周囲は、鎌倉幕府三代将軍である源実朝の首塚と伝わる塚をはじめとし、中世に関する伝承が集中した地域となっています。

白かわらけ
東田原中丸遺跡出土



おわりに

現在のところ秦野市には近世や近代のみの遺跡はありませんが、東田原中丸遺跡などからは近世の遺物が確認されています。このことから、秦野地域は後期旧石器時代から、現在にいたるまでの豊かな歴史を持っていることがわかります。

今回の展示で、そのすべてを紹介することはできませんが、今回展示した資料をとおして、秦野の歴史に興味を持っていただけたら幸いです。さらに歴史の学習を進めたいと思った方は、ぜひまた桜土手古墳展示館をご利用くださればと思います。

参考文献

玉田芳英編『史跡で読む日本の歴史1 列島文化のはじまり』吉川弘文館 2009
NHK『見える歴史』取材班著、酒寄雅志監修『見える歴史第1巻』中経出版 2009
白石浩之『日本史リブレット1 旧石器時代の社会と文化』山川出版社 2002
その他市内報告書

『平成27年度春季特別展 秦野の歴史2015』

編集：秦野市立桜土手古墳展示館 発行：平成27年4月
〒259-1304 神奈川県秦野市堀山下380-3
電話番号0463-87-5542 FAX0463-87-5794

平成27年度春季特別展

秦野の歴史2015

平成27年4月14日(火)～6月28日(日)

はじめに

秦野市立桜土手古墳展示館では、新しく日本の歴史を学びはじめる小学6年生を対象にして、春季特別展「秦野の歴史2015」を開催します。

教科書の内容にそって、より身近な秦野地域の歴史を紹介する展示です。初めて歴史を学ぶ方はもちろん、あらためて歴史を学ばれる方も、ぜひ秦野の歴史的な魅力をお楽しみください。

後期旧石器時代

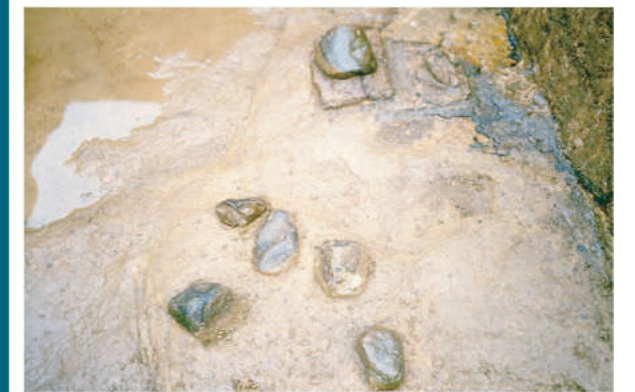
後期旧石器時代は約4万年前から、土器が使用されるようになった約1万6000年前まで続いた時代です。

この時代の人々は、石器を用いて狩猟を行い、食料となる大型の動物を追って移動を行う生活をしていただと考えられています。

しかしながら約2万年前頃、後期旧石器時代も後半となると定住、もしくは半定住を開始した人々も出現します。神奈川県では藤沢市の用田鳥居前遺跡や、相模原市の田名向原遺跡、清川村の宮ヶ瀬遺跡などから後期旧石器時代後半の住居と思われる跡が見つかり、当時の人々が一か所に一定期間とどまっていた様子がわかります。

秦野市域では尾尻にある太岳院遺跡、渋沢にある堂坂遺跡、鶴巻にある不弓引遺跡、寺山にある寺山中丸遺跡などから旧石器時代の遺物が発見されており、特に太岳院遺跡からは石器が集中して発見されたほか、調理施設と思われる「礫群」も発見されています。

れきぐん
礫群
(太岳院遺跡出土)



縄文時代

縄文時代は、縄文土器や弓矢が使用されはじめた約1万6000年前から、米づくりが開始され、弥生土器がつかわれるようになる約2500年前まで、1万年以上の間続いた時代です。

土器の出現によって「煮る」ことや「ためる」ことが簡単になり、人々は豊かな自然を利用し、生活を安定させていきました。

また本格的な定住化も始まり、人々は地面を少しほり下げて屋根をつけた半地下式の「竪穴住居」などに住むようになりました。

秦野では、縄文時代の遺跡が数多く発見されています。曾屋にある曾屋吹上遺跡や、南地区の太岳院遺跡・今泉峯遺跡、東地区の寺山遺跡、西地区の堂坂遺跡といった遺跡があります。



弥生時代

米づくりが開始され、弥生土器が使われるようになってから、古墳づくりがはじまる3世紀の終わりまでを弥生時代と呼びます。米づくりは中国大陸や朝鮮半島から今の九州地方の北部に伝わり、そこから地域によって差があるものの、日本列島の各地に伝わっていきました。

米は一度にとれる量が多く保存もきくため、人々の生活をより安定化させました。しかし米づくりを行う時は集団作業が欠かせないため、同時にリーダーの役割をもった人物を生み出すこととなります。そして、米を作るには大量の水と広い土地が必要となるため、争いが起きるようになり、この時代から豊かなものとそうでないものが分かれはじめたと考えられています。

秦野市域では、弥生時代の遺跡として、大根地区の砂田台遺跡や鶴巻地区の根丸島遺跡などが確認されている他、縄文時代と弥生時代の移行期のものと見られる壺形土器が発見された平沢遺跡(平沢同明遺跡)があります。

この遺跡から発見された弥生前期壺型土器は、九州の北部で成立した遠賀川式土器という土器のながれをひくもので、神奈川県に弥生文化をもたらした重要な土器と考えられています。

弥生前期壺形土器
(平沢同明遺跡出土)



古墳時代

古墳がつくられるようになった3世紀後半から、古墳がつくられなくなる7世紀後半までを古墳時代と呼びます(しかし、古墳時代がつくられる期間は地域ごとに差があり、秦野などでは中央がすでに飛鳥時代や奈良時代となった8世紀初頭になっても古墳がつくれ

ています)。古墳は、地域を支配していた王や豪族が、死んだ後も自分の力を示すためにつくったと考えられています。古墳には前方後円墳をはじめとし円墳や方墳などさまざまな形の古墳があります。

その中でも前方後円墳は、古墳時代畿内(現在の大阪・奈良・京都のあたり)に現れた大きな権力に関する墓であり、全国的に前方後円墳が見られるのは、この大きな権力の支配が地方までいきわたっていったからだと考えられています。

秦野市域の古墳には、当展示館のある桜土手古墳群などがあります。桜土手古墳群は、古墳時代の終わりころ7世紀代を中心に6世紀末～8世紀初頭、およそ100年間の間で35基もの円墳がつくられた古墳群です。また、下大槻には市内唯一の前方後円墳である二子塚古墳があります。6世紀後半につくられたこの古墳の横穴式石室からは、神奈川県内ではじめてとなる全形のそろった銀装圭頭大刀が発見されました。

また、古墳時代の人々は古墳とは別の場所に居住しており、東地区にある東田原中丸遺跡では古墳時代はじめ頃の住居が、名古屋にある草山遺跡では古墳時代終わりごろの住居が発見されています。



古代

日本の古代は6世紀後半から平安時代中期までを指します。894年に遣唐使を停止するまで、日本海によって接した国々から多くの文化を受容した時期でもあり、古墳時代から平安時代の遺跡でみつかると須恵器などは、朝鮮半島から伝わった技術を用いてつくられています。

古代は、日本最古の歴史書である『古事記』が712年、国にとって正式な歴史書である『日本書紀』が720年に完成するなど、日本でも書物がつくられるようになり、文字資料の数が増えていく時期で、考古資料としても木簡や墨書土器など、文字の記された資料が登場します。

この時代、神奈川県は川崎市と横浜市の一部を除き、相模国と呼ばれていました。平安時代中期につくられた『和名類聚抄』という辞書の、相模国の余綾郡の所に「幡多郷」という郷名が見えることから、秦野地域を指す言葉が既に平安時代中期以前に存在していたことがわかります。

この時代の秦野の遺跡としては、古墳時代の部分でも紹介した草山遺跡や、南地区にある西大竹尾尻遺跡群の遺跡が代表的です。

